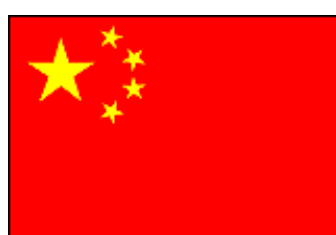


2023 年度和歌山県立日高高等学校

国際交流のあゆみ



日高高校 教育開発部

目次

姉妹校交流

ページ

- | | | | | |
|---|---------------------|------|-----------|----|
| 1 | 中国 西安中学訪問団来校 | 【8月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 1 |
| 2 | デンマーク フレデリクスハウン高校訪問 | 【3月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 11 |

海外研修

- | | | | | |
|---|--------|------|-----------|----|
| 1 | ベトナム研修 | 【7月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 27 |
| 2 | スペイン研修 | 【3月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 31 |

その他

- | | | | | |
|---|------------------------|-------|-----------|----|
| 1 | 台湾桃園市立壽山高級中学来校 | 【4月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 33 |
| 2 | アジア・オセアニア高校生フォーラム 2023 | 【7月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 34 |
| 3 | 第60回全国国際教育研究大会 愛媛大会 | 【8月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 38 |
| 4 | 台湾高雄市立高雄女子高級中学来校 | 【12月】 | ・ ・ ・ ・ ・ | 41 |

姊妹校交流

中国陕西省西安中学校 来校

8月26日から30日の5日間、中国の姉妹校である西安中学から11名の生徒と4名の先生方が来校し、授業やホームステイを通じて生徒同士が交流を行いました。全世界規模の新型コロナ感染拡大による影響を受け、姉妹校相互訪問交流は2019年を最後に停滞していましたが、この度ようやく再開することができました。

1. 日程概要

	8／26（土）	8／27（日）	8／28（月） ※歓迎式後 45分授業	8／29（火）	8／30（水）
	10:00 日高地域のホ テルに訪問団 を迎える	【生徒】 終日、ホスト ファミリーと 過ごす	1 限目の前に 体育館で 歓迎集会 （30分）		玄関前でホス トファミリー と全体で記念 撮影
1 限			校内案内 図書館	授業交流 音Ⅰ（1-3, 4） 美Ⅰ（1-3, 4） 書Ⅰ（1-3, 4）	
2 限	10：15頃 日高高校到着 ホストファミ リリーと対面		授業交流 A:英CⅠ（1-2） B:英CⅡ（2-5）	附属中学校 授業交流 （2年コミュニ ケーション）	閑空→上海 MU516 14:20-16:10 上海→西安 MU9801 21:00-23:40
3 限	・生徒はホス トファミリー と帰宅		休憩	附属中学校 授業交流 （3年英語）	
4 限	【生徒】 ホストファミ リリーと過ごす		授業交流 A:数A（1-5） B:数B（2-1）		
昼食					
5 限			授業交流 A:公共（1-2） B:歴史（2-4）	道成寺 絵とき説法と 見学	
6 限			授業交流 A:理化（2-6） B:英CⅠ（1-6）		
7 限			生徒交流会		
放課後					
			下校	下校	

2. 訪問団、ホストファミリー構成

- (1) 訪問団：生徒 11 名、引率 4 名 計 15 名
(2) ホストファミリー：高校 1 年 2 名、2 年 3 名、3 年 3 名
附属中学 1 年 1 名、2 年 2 名

【日高高校での交流】

歓迎式



授業交流



生徒交流会



クラブ活動交流



道成寺見学



【ホストファミリー感想】

「新しい出会い」

3年4組 片山 嶺奈

私は今回、初めてホストファミリーとして留学生の受け入れをしました。高校入学時から国際交流に興味を持ち始め、いつかホストファミリーになりたいと考えていました。新型コロナウイルスの流行によって交換留学がなくなり、ホストファミリーとして留学生を受け入れる機会がありませんでした。しかし、新型コロナウイルスによる規制緩和によって姉妹校である西安中学校との国際交流が再開することを耳にし、ホストファミリーに応募しました。まさかホストファミリーになれるとは思っていませんでしたので、とてもうれしかったです。

受け入れ前は、「念願のホストファミリーになれる！」という楽しい気持ちの反面、不安な気持ちもありました。国籍、言葉、文化、食べ物、生活様式など住んでいる国が違うだけで何もかも異なります。特に、自分の英語に自信がなく、上手にコミュニケーションが取ることができるか不安でした。いざ留学生と会ってみると、どれだけ自分の英語に自信がなくても、コミュニケーションをとるためには英語で話すほかなかったもので、自然と躊躇わずに英語を話せるようになっていました。自分の伝えたいことが英語を通じて伝えられるのがとても楽しかったです。上手に伝えられないときは、翻訳アプリなどを活用して会話できるので、言葉の違いを心配する必要はないと思いました。普段私は日本語、留学生は中国語を使って生活しているので、お互いの国の言葉ではない英語を通じて会話をしているのが不思議に思いました。そこから他言語を学ぶことの大切さ、楽しさを知りました。留学生にとっても英語は外国語なのに、私とは比べ物にならないほど流暢に英語を話す姿に感銘を受けました。そして憧れました。英語だけでなく、ほかの言語も学び、世界中の人とコミュニケーションをとってみたいと思うようになりました。言葉が通じると世界が広がります。言葉が違くと大きな壁があるように感じますが、全くそんなことはないのです。言葉が違って、住んでいる国が違って、一緒に会話を楽しみ、笑いあえるのです。ホームステイ1日目は、日本の食文化を知ってもらうために蕎麦屋さんに蕎麦を食べに行きました。夜は家で家族みんなでたこ焼きを焼いて食べました。そして庭で手持ち花火もしました。日本の家庭の雰囲気を感じてもらえたと思います。2日目は、海に行きました。中国では海水浴をする機会が少ないと聞いたので、一緒に海水浴を楽しみました。夜は、温泉に行き、日本の新鮮な海鮮丼を食べました。その後、白良浜で開催されていた花火大会に行きました。来日する前にメールでやり取りをしていました。その時に、日本の花火大会にぜひ行ってみたいと言っていたので、目を輝かせながら喜んでくれて私もうれしい気持ちになりました。3日目からは、一緒に学校に行きました。登下校の際にお互いの国の話をして盛り上がりしました。

日本での生活が楽しかったようで「日本の文化も人も好きだ」と言ってくれました。私の母国である日本に興味を示してくれたことがとてもうれしくて、彼の言葉が忘れられません。短期間ではありましたが、互いの国の文化や風習について知り合えました。留学生の彼は、「郷に入っては郷に従え」という言葉通りで、すぐに日本の一般家庭の生活に馴染み、まるで家族の一員のような様子でした。自分自身の成長につながる貴重な体験ができて良かったです。今後も積極的に国際交流に参加し、自分自身の成長



につなげていきたいです。

「貴重な五日間」

3年5組 田中 さくら

私は海外の文化や宗教に興味があり、さまざまな国の人と喋ってみた
い、そして知識を増やしたり、考え方や見方を増やしたりしたいという思
いがあって、ホームステイの受け入れをした。不安はなかったが、実際に
受け入れてみて、自分の英語力の無さを実感した。英会話力を向上させよ
うと思うきっかけになった。会話中たまに通じない時があり、翻訳機能
を使った。その時は日本語から中国語に変換したので、私が伝えたいことが
伝わっているのかが分からなかった。大学では中国語を学びたいと考えて
いて、いつか翻訳機を使わずに会話をしたい。

日本と中国の違いをたくさん教えてもらった。学校での日本との違いは
午前7時から午後10時まで学校があり、恋愛が禁止で、芸術の時間がと
ても少なく、サークル活動はあまり無くて、クラスは20組くらいあるそう
だ。日常での日本との違いはLINE, Instagram, Twitter, Google, YouTube, Facebook が使えなくて(WeChat というアプリで連絡を取



り合った)、冷たい飲料はあまり飲まず、建物が違うらしい。言葉にするのは難しいがただで違いがわかるらしい。

私が受け入れたチャンさんは日本のアニメの犬夜叉、らんま1/2が好きで、逆に日本のアニメを教えてもらった。

よく言われる日本人の性格との違いを感じた。遠回しに言うのではなく、ストレートに伝える性格でとてもいいなと思った。中国について興味を持ったので調べてみようと思ったし、絶対に行ってみたいと思った。めちゃめちゃいい経験になった。



「ホストファミリー・国際交流を通して」

3年6組 小林 千華

今回のホストファミリーの経験は、自分のことを見つめなおすきっかけになった。また、言葉を使ったコミュニケーションの難しさと必要性を学ぶ機会を得た。

中学校から高校3年生までの6年間のうちに行われてきた国際交流では、主体的に行動することがなく、できる人に頼って陰に隠れるようにしてきた。受動的に言われたことを行うばかりで、「こうしたら」や「こうしよう」というような、伝え方を模索したり、伝える相手を意識した表現方法を考えたりする能動的な行動をしてこなかった。国際交流に少しでも能動的に参加することで、海外や外国語に対する意識が変わるのではないか、そう思って、今回ホストファミリーとして参加した。実際に参加して、自分に欠けているものを探そうとて、何も見つけようとせず、知ろうとしない、これまでと変わらないようでもあった。言い訳ばかりで何も見ない自分を、来られた西安の方や、その時の家族の様子を通して、見つめて、考えることができた。そして、身近なことだけを学び知るだけでは、伝えられないことも理解も納得も得られないことがあるのだと学んだ。今までそれを見つめて、知ることが怖かった。自身が言い訳

して逃げていることを突き付けられる気がして怖かった。それでも、これからを考えたとき、知らなければならなかった。だから、今回参加して、「私は、やっぱりこんな人間なのだ」と思うと同時に、「どうしたら変えられるだろうか」と向き合うようになった。逃げるだけでなく、知ろうとすることが大切なのだと学んだ。

また、今回の交流で、声に出して言葉を交わすことが少なかった。彼女も私も喋ろうとしないわけではなかった。しかし、思うように伝えられなかった。特に、私の理解は浅かっただろう。英語が苦手好きになれない、そんな苦手意識を、英語は必要で、使えることは大切なことだ、そんな意識に変えたかった。翻訳アプリや翻訳ソフトがあるから、調べたらいけるから、その言葉を言い訳にいつもやらなくてもいい方法を探していた。結局、今回の彼女との会話はスマートフォンの翻訳アプリを紹介することばかりだった。私は、「伝わらない英語を伝えようとするよりも、日本語を中国語に翻訳して伝えた方が伝わるだろう。」そう考えた。それを相手はどう思ったのかわからないが、それで会話が成り立つならいいと思った。最終的には、数日間のコミュニケーションは、機械に頼った。その方法をとる中で、簡単なことでも一つ一つ伝えることに時間がかかるもどかしさと、それ故に続かない会話に対する焦りがあった。翻訳ソフトを使っても、お互いに正しく伝わらないことに対するいら立ちも私の中にはあった。それらの感情を通して、「ああ、口頭で会話できればいいのに」と思った。会話できれば、こんなこと思わないのかもしれないと思った。非日常は、日常の会話の大切さを教えてくれた。それは、同じ言語を使っている家族や友達との会話でも考えることや感じることは多く、声を使い、機械通さないからこそ分かるものが存在していることを教えてくれた。そこから、言語の違いだけでなく、コミュニケーションの難しさを改めて感じた。そして、肉声を通して会話することの重要性を学んだ。



「初めてホストファミリーを経験して」

2年3組 久保田 華衣

私は今回、ホストファミリーを初めて経験して、たくさんの新しい発見がありました。まず、「言葉が通じなくても話すことができる」ということです。私は中国語を話すことはできないし、英語も得意ではなく、上手くコミュニケーションができるのか不安でした。けれど、会って話してみると、言葉で会話することだけがコミュニケーションではないと気がつきました。ジェスチャーを使ったり、表情を見たりすることでも、コミュニケーションをとることができました。言葉の壁というものは意外と低くて薄いものだと思えます。



次に、自分の国についてです。彼女は自分が住んでいる中国について詳しく説明してくれました。文化や伝統、地域のことや学校のことなど、初めて知る様々なことを教えてくれました。私も日本について説明するため、様々なことを調べ、考えました。私が説明した内容に彼女はいろんな表情を見せてくれました。そして「すごい」という言葉をたくさん言ってくれました。自分では何も思っていなかったことでも、外国に住んでいる彼女から見た意見や感想を聞いたことで、

自分にとって新しい見方や考え方を持つことができました。

なぜ日本に来ようと思ったのか理由を聞くと、彼女は以前から日本に興味があったからだそうです。日本のアニメや音楽が好きで、興味が湧いたと話していました。彼女が好きなアニメや音楽は、日本でも人気のあるもので、世界は広いけれど近いんだなと思いました。日本語が話せるわけではないけれど、音楽がかかると日本語の歌詞をすらすらと綺麗に歌っていました。

また、たくさんの思い出もできました。私たちは一緒に花火大会に行きました。彼女は花火というものは知っているけれど、見たことはなかったそうです。花火が始まるまで一緒に屋台を見て回りました。彼女が自ら食べたいと言ったものは、アニメで見てずっと食べてみたかった「たこ焼き」と、可愛いと言っていた「いちご飴」でした。どちらもすごく嬉しそうに食べていて、私たちも嬉しかったです。花火も「きれい」「素晴らしい」などとたくさん言ってくれ、中国にいる家族にも見せたいと言って、たくさん写真や動画を撮っていました。



白浜に行った際も、いろんなものを一緒に見ました。住んでいるところや言葉は違っても感じることは同じで、とても嬉しく思いました。お昼ご飯を食べた時、お互いの国の言葉の発音や学校での生活などの話をして、すごく盛り上がりました。その話をして盛り上がった後からとても話しやすくなって、お互い気楽に笑うことができるようになった気がしました。「距離が縮まる」という感覚がして、本当に嬉しかったです。彼女も私もプリンが好きで、買い物中見つけた時は一緒にお母さんに買ってもらい、一緒に食べました。彼女は日本のプリンはすごく美味しいと言って、とても気に入っていました。また日本に来た時は食べたいそうです。

いろんな思い出ができたこの5日間は、本当にあつという間でした。だんだんと慣れてきて、気楽に楽しめるようになった頃のお別れは本当に寂しくて、今も会いたいと感じています。

たくさんの新しい発見や学び、思い出ができたこの「ホストファミリー」という経験はすごく貴重なものだったと感じます。この経験と思い出を大切に、また会おうねと約束したことを実現できるよう、何事も頑張っていきたいです。本当に楽しい5日間でした！！

「中国人と同じ生活」

2年6組 北出 敦寛



僕が長く英語で生活をした初めての経験だった。話せるか心配だったけど、単語、単語で話してみても伝わるし、向こうも同じくらいの英語力でよかった。色んなところと一緒に行ったし、同じ家で過ごしたから、文化の違いをととても感じた。友達とも遊んだし、楽しく過ごせた。彼らは多くの写真を撮っていた。思い出をいっぱい持って帰ろうとしていたし、お土産もたくさん買っていた。妹には特にいっぱい買っていたし、とてもやさしい人だった。最初は異文化に敏感になっていて、あまり受け付けなかったけれど、「朱に交われれば赤くなる」というように、慣れていった。たまには日常と違う日々を送るのも悪くないと思った。一緒にしたマリオのゲームも、花火大会も面白かった。

英語を話すことにとても自信がついてきた。日々習ったことをアウトプットするのは、成長を感じてとても楽しい。

皆さんも積極的にアウトプットしてみてください。

「ホームステイを経験して学んだこと」

2年6組 村上 ななみ

ホームステイ受け入れを行ったことで、新たな文化や習慣を学ぶことができました。また、交流を通じて国際的な視野を広げることができ、友人を作る機会を得ることができました。しかし、始めはお互い緊張していた部分もあり、上手くコミュニケーションをとることができず、翻訳機能に頼ることが多かったのですが、お互いがどんどん仲良くなってくると、喋りたいことがたくさん出てくるので、合っているか間違っているかはさておき、翻訳機能をあまり使わずにたくさん喋れるようになりました。ジェスチャーも混ぜながら相手に伝えることで、より相手側が理解してくれたので、相手に伝えるための大切な1つの手段だなと感じられました。また、ホームステイはお互いに調和を保ちながら生活を共有するために、相手を尊重しコミュニケーションを大切にすることで、相互理解を深めることができると思いました。

「西安中学生徒との交流を通して」

1年2組 森口 園乃子



私は今回が初めての国際的な交流となりました。期待も大きく、その反面不安なこともたくさんありました。やはり国が違くと何もかもが違って、私にとって新しい刺激になりました。

私たちは今回、那智勝浦町、新宮市などに行き、日本の古き良き遺産や文化を紹介しました。移動中の車内で会話が弾みづらかった点をとても後悔しています。やはりお互い第一言語が異なるので、拙い英語でコミュニケーションを取るのも、やはり翻訳機を駆使しても伝わりにくいところもあり、会話が少なくなっていました。ですが、心配していた以上に楽しみが勝ち、言葉が通じなくても、ジェスチャーなどを使って、たくさんコミュニケーションを取りました。

私は国際交流というのをとても高い壁のように感じていたのですが、今回の機会、意外に高くない壁だということを知ることができました。交流した子も、最初は他人行儀な感じがありましたが、最終日には私の家族たちとも打ち解け、楽しそうにご飯を食べていました。私の家族は、最終日に、「交流できる日がもう少し多くあれば、もっとたくさんのかんことをしてあげられた。」と言っていました。私もとても別れが惜しく、もっとたくさん一緒に居たかったと感じました。彼らが帰った後も、私たちはチャットアプリでやり取りしています。また次の機会がとても楽しみです。



「ホストファミリーを経験して」

1年6組 三好 瑛太

私はホストファミリーを経験してたくさんのことを学ぶことができた。今回はその経験について私自身が実際に体験したことを紹介しようと思う。

私は異文化交流を今までに体験したことがなく、当日までワクワクする感情と不安でいっぱいだった。なぜなら、異文化について調べたことと実際は異なっていたり、日本で当たり前行動が相手にとって失礼に当たる行動であったりするからだ。また、日本の文化というものをどんどん知ってほしいと思っていた。

私の家に来た留学生は私の一つ年上の男の子だった。その人は身長が高く、スポーツやゲームが好きで私と似ている人だった。最初は両方緊張して全く話せなかったが、その時に両親が声をかけてそこから少しずつだが会話をするようになった。

1日目は私が住んでいる由良町で観光をした。まず、白崎海岸に着いた。この道の駅で軽食をとった。かき氷や農家の人が作ったオレンジジュースなどを味わった。その夜、祖父母の家に行ってバーベキューをした。食べる機会が多くなかったので、留学生の人も私も楽しみにしていた。肉を焼いたり、おにぎりを食べたり、とても満足していて、見ているだけでもとてもうれしい気持ちになった。その後、御坊で花火大会があり、一緒に見に行った。夜空に咲く花火はとても綺麗で、あっという間に時間が過ぎていった。留学生はこれを見て、「とても綺麗で感動した。私が住んでいる場所ではこんな大きな花火は見られない。」と話していて、花火は毎年見られるわけじゃないんだなと感じた。

2日目は、家に私の親族が来て、手巻き寿司を食べた。そこで以前旅行で西安に行ったことがあるという話でとても盛り上がった。そこで、留学生の子がその場所について教えてくれた。その歴史や文化、建物についてなど、たくさんことを教えてくれた。

その次の日から一緒に学校に行った。学校ではほとんど別行動をしていたが、昼休み同級生と一緒にご飯を食べた。そこで、同級生とたくさん話をした。趣味の話をしたり、日本語を教えてあげたりした。帰りに一緒に電車に乗って話していると、教えてくれた日本語を使ってくれた。その時、うれしくてつい笑みがこぼれてしまった。

そして、最後の日。その日はとても悲しい気持ちになった。最初は緊張して話せなかったが、数日間でこんなに留学生を見送るのが悲しくなることに戸惑い、どう声をかければいいのか分からなくなってしまった。最後に写真を撮り、握手をして別れた。とても切ない気持ちになった。

この数日間はとても貴重な経験になった。しかし、この経験を通して英語の能力が足りていないと感じた。相手の人にわかるように伝えようとしてもうまく発音できなかったり、そもそも単語力がなかったりした。しかし、このホストファミリーとしての経験はとても良いものになったと感じた。相手の文化を知ることができたり、西安のお土産をもらったり、私の住んでいる地域に誇りを感じたりした。私にとって本当に大切にすべき体験となった。

「初めてのホストファミリーを経験して」

附属中2年A組 熊谷 悠月

この夏、私たち家族は中国から来た高校生をホストファミリーとして受け入れた。ホストファミリー



になるのは初めてなので、お互いの意思疎通がうまくできるだろうかと
いう不安を抱えたまま当日を迎えた。

緊張の初対面の後、白崎海岸や洞窟などを観光し、夜はおそろいの浴衣を着て御坊の花火大会を見に行った。中国では花火をすることは禁じられているそうだ。打ち上げ花火はもちろん、手持ち花火もしてはいけないと聞き、とても驚いた。そこで手持ち花火を買い、家で一緒に遊ぶことにした。最初は、初めての花火に怖がっていたが、たくさん写真を撮り、楽しそうだったので、私もうれしかった。また、高校生の兄を交えてジェンガなどのゲームをして盛り上がり、家で飼っている動物たちと遊んだり、私が習っている合気道に参加してもらったりと私の日常生活を体験し、楽しんできた。このような日本での日々が彼女の夏の思い出のひとつになっているといいなと思う。

今回の経験から、言葉がうまく出てなくても伝えたいと思い、諦めずにコミュニケーションをとれば、たいていのことは伝わるということ、逆にお互いの言葉を知らなければ細かいニュアンスが伝わらず誤解が生じることがあるということを感じた。私たちの世代がこうして交流することは、とても有意義なことだと思う。

今回の西安中学ホストファミリーとしての体験は、他国のいろいろな文化を知る良い経験になったと思うので、機会があればまたホストファミリーとして海外の方を受け入れたり、私自身が海外に行ったりしてみたいと思った。



「西安の生徒を受け入れて」

附属中2年B組 宮本 早亜弥

私は、初めて留学生を受け入れて、英語を話すだけで楽しくなりました。西安の留学生を受け入れたとき、中国からの迷惑電話などがニュースでよく報道されていましたが、留学生と話していると本当に日本のことが好きなんだなと思い、心配していた自分が恥ずかしくなりました。初日は休日だったので、家で過ごしました。一緒に好きな K-pop アイドルの話をしたり、散歩したり、近くの神社にお参りに行ったりしました。夜は、お好み焼きを食べ、とても気に入っていたので、良かったなと思いました。2日目は、お昼まで家でゆっくり過ごしてから、お出かけをしました。白浜の千畳敷へ行ったり、三段壁やとれとれ市場、円月島、京都大学白浜水族館に行ったりしました。一日で白浜巡りをし、とても感動していたので本当に良かったです。初日から毎回、夕食は日本食でした。

月曜日からは通常の学校生活で、お昼や行き帰りが一緒でした。帰るときに私のことを見たらすぐに大声で呼んでくれて、とても嬉しかったです。月曜の夜は二人で花火をしました。中国では手持ち花火などは禁止だと聞いて、とても驚きました。その夜はすき焼きを食べました。留学生の子はお肉が大好きだったので、気に入ってくれて良かったです。

火曜日は、私達の授業でも交流学習があり、そこで会えたときとても嬉しかったです。また、お昼も一緒にご飯を食べられて良かったです。ホストファミリーははじめてで、正直会話が成り立つかも不安でしたが、留学生の子はいつでも笑顔で対応してくれて本当に嬉しかったです。

次はいつ会えるかわからないですが、その時は翻訳機など使わずにすらすら話せるようになると約束したので、それまでに英語を話せるように頑張りたいと思いました。

実際にホストファミリーとなって自分の英語に対する思いや、中国に対しての思いが変わりました。とてもよい機会になったので、もし今後このような機会があればまた挑戦したいなと思いました。

「初めてホストファミリーの受入を行って」

附属中 1 年 A 組 森田 圭吾

8 月 28 日土曜日から 30 日水曜日にかけて 4 泊 5 日、姉妹校中国陝西省にある西安中学の 2 年生、李明阳くんのホストファミリーになりました。きっかけは学校で募集があり、家にいながら国際交流ができると親の積極的な申し出からでした。

李君が泊まった部屋にアニメのパズルをいくつか飾っていたので、そのアニメが大好きだという話をしたり、受入日が土日だったので一緒に出かけたりしました。白浜へ行くと、普段は内陸に住んでいるので海を見るのは 10 年ぶりと喜んでくれていました。花火大会を一緒に見られたことも思い出に残りました。

平日には一緒に学校へ登下校しました。この生徒は明るくて楽しいと、学校のことを褒めてくれました。李君はとても真面目で、空いた時間には勉強をしていました。

初めての海外だったそうで、「日本が気に入ったのでまた来ます。」と言ってくれました。自分も海外の人たちと交流するという機会があまりなかったので、最初は不安もあったのですが、5 日間を過ごしているうちに不安も少しずつなくなってきて、楽しくなってきました。これからも、他の国の人々とも国際交流をしていき、自分の経験値を上げていきたいと思いました。今回ホストファミリーになったことで普段できないことをさせていただいて、とても良い経験になりました。



デンマーク フレデリクスハウン高校訪問

1. 交流の経緯

1957年2月10日、日ノ岬沖を航行していたデンマークのエレン・マースク号が、炎上する日本漁船に遭遇しました。海に投げ出された日本人船員を目にしたヨハネス・クヌッセン機関長は、わが身を顧みず荒れ狂う海に飛び込み、命を落としたのです。地元の人々は彼の勇気ある行為に胸を打たれ、事故現場を見おろす日ノ岬パーク内に顕彰碑と胸像を建立し、日高町田杭地区には、大破した救命艇の保管庫を建て、その遺徳を偲んでいます。

このクヌッセン機関長の故郷フレデリクスハウン市は、ユトランド半島北部に位置する人口およそ 23,000 人の港町です。事故から 50 年にあたる 2007 年 8 月、市のバングスボー博物館にクヌッセン機関長記念コーナーが設置され、その除幕式に和歌山県、美浜町、日高町から関係者が出席しました。その折に、「今後の交流については高校生同士の手で」というお話をいただき、在デンマーク日本国大使館の紹介を経て、日高高校とフレデリクスハウン高校との交流が始まりました。

フレデリクスハウン高校は生徒約 600 名、特に自然科学分野、クリーンエネルギー学、海洋学に力を入れている学校です。また、ヨーロッパ諸国に複数の提携校を持ち、国際交流にも意欲的です。

2010 年 11 月に日高高校から初めての訪問団を派遣し、2011 年にはフレデリクスハウン高校からの

訪問団を受け入れました。その折、姉妹校提携を結び、以降毎年相互訪問交流を行ってきました。しかし、新型コロナの世界的感染拡大により、2019 年を最後に訪問交流が途絶えてしまいました。この度ようやく再開することができたデンマーク訪問は、今回で 6 度目となりました、また、2024 年 10 月にはフレデリクスハウン高校生が来校予定です。クヌッセン機関長によりご縁をいただいた両校の友好が、今後ますます深まり発展することを期待しています。



2. 目的

- (1) クヌッセン機関長の縁ある場所を訪問することにより、友好の絆を確認する。
- (2) ホームステイ体験や名所・施設等の見学を通して、異文化理解を深める。
- (3) 姉妹校での授業交流や協働学習において互いの学修成果を共有し、英語でのコミュニケーション能力の育成を目指す。
- (4) 参加生徒一人ひとりの豊かな国際感覚を育成し、社会科学的な視野を広げる。

3. 交流日程

2024年3月2日（土） — 12日（火）11日間

4. 日程概要

	日時	地名	内容
1	3/2（土）	関西空港 アムステルダム オールボー	11:05 関西空港発 KL868 18:10 アムステルダム乗継 KL1137 22:30 オールボー着
2	3/3（日）	フレデリクスハウ	10:00 フレデリクスハウ高校による送迎 ホストファミリー宅へ
3	3/4（月）	フレデリクスハウ	フレデリクスハウ高校にて授業交流
4	3/5（火）	フレデリクスハウ	授業交流
5	3/6（水）	スケーエン	1 限目の授業交流後、スケーエン市 見学（美術館、自然公園等）
6	3/7（木）	フレデリクスハウ	クヌッセン機関長の墓参、 フレデリクスハウ市長表敬訪問 海軍・海兵隊施設見学 送別会
7	3/8（金）	フレデリクスハウ	午前中、授業交流 午後、クヌッセン機関長が育った家等市内見学
8	3/9（土）	オールボー	ホストファミリーとオールボー市内 見学
9	3/10（日）	フレデリクスハウ	ホストファミリーと交流
10	3/11（月）	フレデリクスハウ オールボー アムステルダム	06:45 フレデリクスハウ高校集合、出発 10:15 オールボー発 KL1330 13:00 アムステルダム乗継 KL867
11	3/12（火）	関西空港	09:35 関西空港着 10:40 入国手続き後、解散

*KL→KLMオランダ航空

5. 参加者

訪問団：生徒 10 名、引率教員 2 名 計 12 名

1 年：森口園乃子 池田明州哩 轟千恵

2 年：及川真未 岡佳亮 岡本太一 柏木洋一郎 玉置みう 中村壮太 村上ななみ

教員：菊地貴子 下畑伊織

【研修について】

【事前研修】

村上 ななみ

私たちデンマーク研修参加生徒はデンマークに訪れる前に、3つの事前学習を行いました。

1 つ目に行ったことは、日高高校や和歌山県、御坊日高地方の紹介、クヌッセン機関長について、フレデリクスハウ高校で発表するためのパワーポイント作成でした。発表はすべて英語で行いました。これらの準備を通して、クヌッセン機関長について深く知ることができました。



2つ目に行ったのは、FLTのDaniel先生による英語研修で、12月から2月にかけて計6回行いました。主に、日常会話で使えるフレーズや、発音を教わりました。とても楽しく学ぶことができました。

3つ目に行った事は、Collabulative Calendar（日高高校とフレデリクスハウン高校の合作カレンダー）の作成でした。デンマークに行く前に日本の行事などをカレンダーに記入し、現地に行ってからデンマークの行事などを記入してもらいました。私は12月の担当だったのでクラスで行ったクリスマス会の写真を掲載しました。

【1日目：3月2日（土）】

森口 園乃子

朝早く起きて関空に向かいました。日本を出るという実感は全く湧かなくて不思議な感じでした。初めての海外ということに私は朝からとても浮かれています。

出国審査は長蛇の列で自分の番が来るまでずいぶん待ちました。初めてのことばかりで一つ一つのことすべてにドキドキしていました。人がいなくて機械だけのところがあったりして、すごいなと感じたことを覚えています。

私たちが乗った飛行機はオランダ航空のKLMで、青い機体が映える大きな飛行機でした。座席同士の



幅は想像していたより狭くて、長いフライトに耐えられるのか不安になりました。初めはとてもワクワクしていたのですが、時間が経つごとに全く進んでいないように感じる時間との戦いになっていました。その中でも機内食は少しの楽しみになりました。2回食べたうち、1回目は焼きそば、2回目はグラタンでした。どちらもおいしかったです。

夜にデンマークに到着し、飛行機から降りたときには霧がすごくてびっくりしました。

【2日目：3月3日（日）】

朝ごはんはホテルのビュッフェで食べました。10時頃にそれぞれのホストファミリーがホテルまで迎えに来てくれ、対面しました。ホストファミリーの家に着いてしばらくして、お昼ご飯を食べました。オープンサンドのようなもので、パンに好きなものを好きなだけのせて食べるといったものでした。

初日は他の日本人の子とそれぞれのホストファミリーの6人で

プールに行きました。海外の

プールでは、入る前と入った後に裸でシャワーを浴びます。私にはそれが研修の中で一番信じられなくて、一番受け入れられなかったことでした。初めはそんな風に思っていたのに、人の慣れというのは怖いもので、私も他の日本人の子も最後には全く気にならなくなっていました。むしろなんだか3人の絆が深まったようにも感じました。



初日の夜ご飯はラザニアで、私はあまりラザニアを食べたことがなかったので、とても楽しみにしていました。楽しみすぎて、家にいる間はオーブンに入っているラザニアをちらちらとみていました。いざ夕食の時、テーブルに乗ったラザニアからはとてもいい匂いがして、たくさんのチーズがのっけていてとてもおいしかったです。私のホストマザーはとても料理が上手で、デンマークにいる間、たくさんの伝統料理を振舞ってくれました。そのどれもがおいしくて私は毎回たくさん食べてしまいました。

その日の夜は次の日の学校に備えて早く寝ました。そのころには優しいホストファミリーのおかげで、私の中の不安はすっかりなくなっていました。

今考えてもまたデンマークに行きたいと思います。それほど今回の研修は私の人生におけるとても大きな一歩でした。

【3日目：3月4日（月）】

池田 明州哩



初めて、フレデリクスハウン高校 (Frederikshavn Gymnasium) に行きました。授業は基本すべてデンマーク語で行われたので、かなり難しく苦労しました。まず、学校に着くと、デンマークの学校の仕組みについて教えてもらいました。日本とはかなり異なっていました。

次に、スペイン語の授業があって、そこでは普段の授業とは違い、デンマークと日本の交流というような感じで、それぞれの国について話し合いました。また、日本の折り紙も教えてあげることができました。国によって、文化、食生活、学校など様々なことが異なるので、非常に興味深かったです。

3つ目は、デンマーク語の授業でした。ここでも授業としては初日ということもあり、デンマークの生徒と交流できました。驚いたのは、みんな英語がかなり流暢であるということです。僕もオンライン英会話を週4回くらい受講しているのですが、会話としては滞りなかったけれど、これからの課題はかなりあるなという風に実感することができました。

そして、昼になったので cafeteria で昼食をとりました。日本の食事とは大きく異なり、主食が小麦、ジャガイモなので、最初は違和感を覚えました。

最後の授業は、美術でした。この授業では、粘土で陶芸をしました。また、この授業に限り、スマートフォンが回収され、個々の独創性を大事にしているのだらうなと思いました。

この体験を通じて、日本では当たり前だと思っていたことがそうではなく、グローバルスタンダードという視点で考えられるようになりました。

【4日目：3月5日（火）】

轟 千恵

1 時間目 英語：みんなの英語力にびっくりしました。小さい子からお年寄りまで英語ペラペラでした。

2 時間目 カレンダー作り&デンマーク紹介：カレンダーを作成してもらいました。デンマーク紹介のおかげで色々デンマークについて知ることができました。

昼休憩：みんなでお弁当を食べました。いつもと一緒であり変わらなかったです。周りの子の弁当には生のにんじんや、パプリカ、玉ねぎ、きゅうりなどが出てきました。

3 時間目 地理（オーストラリアについて）：デンマーク語で進めていました。あまりわからなかったで

す。

4 時間目 科学：デンマーク語で進めていて口調が速かったです。

放課後ボーリング：みんなでボーリングしました。みんなでワイワイしながらしました。私はボーリングが下手なので、ガーターをつけてくれました。最後の記念撮影では、シャッター音がないので撮ったかどうかわからなくて知らない間に撮られていました。時差の影響で夕ご飯を食べた後、6 時に寝てしまいました。

【5 日目：3 月 6 日（水）】

及川 真未

バスで美術館やデンマークの最北端のスケーエンへ行きました。美術館では絵を見てその絵がどういうストーリーなのかを考えました。スケーエンの地形は南北に尖っており、2 つの海が合流する光景を眺めることができました。

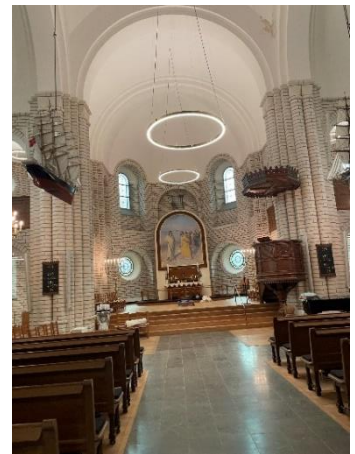
放課後は日本の友達とデンマークの友達の 4 人で買い物へ行き、一緒に夕食を作りました。パンの上に白身魚のフライやサーモン、野菜などをトッピングしたもので本当に美味しかったです。また、自分の好きな洋楽を順番に流しながら、楽しく料理することができました。夕食後は各自お菓子や飲み物を持って学校へ行き、みんなでドラえものの映画を楽しみました。初めて食べるお菓子にたくさん挑戦しました。

【6 日目：3 月 7 日（木）】

岡 佳亮

デンマーク研修 6 日目、フレデリクスハウン高校の方々が組んでくれた計画により、デンマークに着いてからたくさんの楽しい経験をしたが、特に充実していたと言える一日であった。

いつも通り学校に登校し、フレデリクスハウン市長訪問に向かった。道中にクヌッセン機関長のお墓があり、お参りに行くことができた。デンマークの主な宗教はキリスト教で、仏教が主である日本ではあまり馴染みのないお墓であり、少し新鮮な感じがした。デンマーク語は読むことができないため、お墓に刻印されていた文を読むことはできなかったが、Japan という文字があり、日本について書かれていることに驚いた。お墓参りの後はルーテル教会に寄ることができた。自分の家は仏教であり、キリスト教会は初めてであるため緊張した。キリスト教会の内装は、映画などでよく見る通り広くてとても綺麗で、気になっていたチャペルチェアに座ることができた。その後少し歩き、フレデリクスハウン市長のところに到着した。市長はとてもフレンドリーな方で、フルーツ、お菓子、ジュースなどで自分たちを歓迎してくれた。スライドを用いて話してくれたデンマークや国際関係の話は、とてもためになった。市長訪問の後はデンマークの海軍に行き、船の中を見学することができた。階級別の海軍隊員の自室や操縦室、大砲を見ることができた。軍艦のデッキから見るデンマークの街の景色からは、日本とはまた違う美しさを感じることができた。そして、一度学校に戻り、昼食を食べた。初日と違い、食堂でたくさんの人とご飯を食べられるようになったと同時にこの生活がもうすぐ終わってしまう心寂しさを感じた。一度家に帰り 2 時間程休んだ後はセレモニーパーティーに行った。パーティーでは伝統料理のフレスケスタイを食べた後、日高高校の校歌やパワーポイントを使った発表などをし、和歌山県について知ってもらうことができた。発



表が終わった後、カラオケしたり、日高高校で体育の時間に行っているエアロビクスを披露したり、お互いの国の言葉を教えあったりしたのがとても楽しかった。最後にデンマークのケーキを食べて家に帰り、長いようで短い一日が終わった。

【7日目：3月8日（金）】

岡本 太一



この日は Frederiskhavn の町中を歩きました。その中でも特段心に残っているのは丘の上から見た町の絶景です。言ってしまうとヨーロッパによくある街並みですが、実際に見るととても美しい景色でした。後ろには山が広がり、右を見れば日本ではとても見られないような広大な原っぱ（畑？）が広がっていました。そして目の前には港町が広がっている風景、もしもう一

度見る機会があればもう一度見たいです。また、写真は撮っていないのですが、この日はクヌッセン機関長のお墓と生家も見てきました。氏の生家では「どこかに本人が子供の頃に壁に落書きした“JK”のイニシャルがある」と聞き、みんなで探して回り、最終的に玄関付近のレンガの壁にあるのを池田君が見つけた時には、みんなで「凄一！」と驚きました。墓標の前では私たちも黙とうを行いました。その後、大きな追悼碑のようなものを見つけました。話を聞くと、どうやら過去に海難事故で亡くなった人たちの慰霊碑だそうです。そちらにも個人的に黙とうを行いました。へとへとになって家に帰った際には、ホストファミリーのお父さんがラザニアを振舞ってくれました。これがラザニアを食べた初めての経験だったのですが、チーズとお肉のうま味がとても引き立ち、チリや豆などのほかの具材の味も程よく引き立つとても美味しい一品でした。できるものならもう一度食べてみたいです。なんやかんやでとても楽しい一日でした。

【8日目：3月9日（土）】

柏木 洋一郎

昼間はオールボーに行き、主に買い物をして観光を楽しんだ。お土産用のお菓子をたくさん買った。また、昼食を自分たちで取るということで、僕たちはマクドナルドに行った。日本のマクドナルドには無いメニューがあったり、逆に日本にあるものがデンマークにはなかったり、新鮮さがあった。すごく充実した時間を過ごすことができた。その後は文化学校に行き、そこで夕飯としてスープを食べた。また、そこにはたくさんの日本人生徒がいて、学校を紹介してもらい、交流を楽しんだ。生徒は皆楽しそうで、良い学校ということが伝わってきた。夕飯の時に2名の日高高校生が誕生日を祝ってもらった。その後はダンスパーティのようなものがあり、僕たちも参加させてもらった。最後に、その学校にあるお風呂に入った。屋外にあり、久々の風呂だったので気持ちよかった。この日はたくさんの事があって、満足感のある最高の1日だった。



【9日目：3月10日（日）】

玉置 みう

午前中は、みんなで室内プールに行きました。最初プールに行くと言われたときは、この季節にプールは寒すぎると思いました。しかし、行ってみると室内の温水プールでした。サウナも付いていて、初めてロウリュを体験しました。プロの方がいて、パフォーマンスみたいでした。プールというより、温泉のようでした。また、たくさんの種類の浮き輪やおもちゃがありました。私はバレーをしました。広がったので、自由に動けてとても楽しかったです。中央には深さ190cmの冷水のプールがありました。室内は明るかったのに底が全く見えなくて怖かったです。そこには大きな浮き輪のようなものがあった



って、多くの人に乗っていました。デンマークの人はそこで落とし合っていて遊んでいました。そして、プールには小さい子やお年寄りの方など様々な人がいました。よく家に遊びに来てくれるホストマザーの友達が出来ていて、びっくりしました。お昼ご飯は、最終日だからといって高めのレストランへ連れて行ってくれました。注文形式が特殊でした。まず、3品か5品か7品頼むかを決めます。そして、選んだ数だけ頼みたい料理にチェックします。個人的にデンマークの料理はどれも日本人の口に合うと思います。キムチの麺料理があったので、頼んでみました。デンマークのキムチは全然辛くなかったです。今度日本に来たときは、本物の韓国のキムチを食べてみてほしいです。それからは、デンマークの教会や砂丘などに連れて行ってくれました。戦争の話を教えてもらいました。この研修でデンマークの歴史に少し詳しくな

ったと思います。そして家に帰り、パッキングを始めました。このときに、もう帰らなければいけないという実感が湧きました。約1週間1回も寂しい思いをしたことがなく、本当に帰りたくなかったです。夜ご飯は、日本でいうバターカレーのような料理を食べました。白ご飯に豚肉の入ったルーをかけ、混ぜて食べました。日本ではカレーを混ぜて食べる人がおらず、混ぜると少し行儀悪いイメージがあります。初めはびっくりしましたが、私も混ぜて食べました。味はとてもまろやかで癖がなく、本当に美味しいです。デンマーク料理の中で2番目に好きです。そして、デンマークではお茶や水ではなく、毎食コーラを飲みました。私は普段からジュースを飲まないのですが、少ししんどかったです。炭酸ですぐお腹が膨むので、もっとご飯を食べたかったです。最後の夕食の間は、お話をたくさんしました。日本のことをたくさん聞いてくれて、嬉しかったです。英語を話すスピードにも慣れてきて、本当に素で笑うことができました。食事の後は、みんなでバレーボールをしました。みんな身長が高くてバレーが上手かったです。また、私がちょっとボールを返せただけでも「good job」って言ってくれました。スピーカーから音楽をかけていて、とても楽しい雰囲気でした。バドミントンも、久しぶりにできて楽しかったです。家に帰り、次の日は朝早いので22時に寝ました。



【10日目：3月11日（月）】

中村 壮太

朝起きて、お世話になったホストファミリーの家族と別れの挨拶をしてから、家を出た。10日間共に過ごしてきたホストファミリーとの別れはとても心悲しく、別れたくないと思ったが、出会いには別れがつきものだなと思い運命を受け入れた。

全員でフレデリクスハウン高校に集まり、最後の会話を全員で行った。写真を撮ったり、握手をした

り、ハグをしあったりした。泣いている生徒もいた。先生と生徒全員で集合写真を撮った。10 月にも同じ写真を撮れることを祈る。

僕はマルテ（僕を受け入れてくれたホストファミリー）と熱いハグを交わして、「10 日間楽しかった。日本に来るのを楽しみにしている。」と言い、別れを告げた。

バスで、オールボー空港まで行って、搭乗手続きを済ませて、KL 1 3 3 0 便でアムステルダムスキポール空港へ行った。飛行機の中でサンドイッチのようなものを頂いて、食べた。とてもおいしかった。スキポール空港で少し買い物をして、KL 8 6 7 便に乗り、関西空港へ飛び立った。飛行機の中で「The MEG」というサメ映画を見た。機内食は二食出たのだが、どちらも美味だった。記憶があいまいだが、片方は、魚がメインで、ご飯もついている食事で、もう片方はパンといくつかのおかずで構成されていて、フルーツもついていた気がする。機内で、アップルパイを頂いた。とてもおいしかった。そのあと、おしゃべりをしてから、飛行機の中で眠りについた。



【参加生徒の感想】

「デンマーク研修を通して」

2 年 6 組 及川 真未

私は今回のデンマーク研修を通して多くのことを体験し、学ぶことができました。ホストファミリーに初めて会った時は本当に緊張し、「間違ったこと言わないようにしないと」と頭の中で文法を意識して話していました。しかし、話が通じた時は本当に嬉しく、どんどん話すことに自信がつき、「間違ってもいいから話したい!」と考えるようになりました。私のホストファミリーは母と父と同年のラーカと 3 人の兄でした。みんなフレンドリーで私の拙い英語を一生懸命聞いてくれ、時間があればみんなでボードゲームをして盛り上がり、ホラー映画を見たりしました。特に母は毎日、今日はどういうことをしたのかを聞いてくれて、自分の知っている単語を絞りながら話すことができ、とても力がつきました。食も口に合わなかったらどうしようと不安でしたが、全部美味しく、デンマークの郷土料理を振る舞ってくれたり、音楽を流しながらピザを一緒に作ったりとたくさんの体験ができました。また、ホームステイ先の近所に日本が大好きな小学生がいました。会った時、日本語で自己紹介をしてくれ、たくさんの歌の話やアニメの話をしました。こんなに遠くの国の人も日本の文化に興味を持ち、好きになってくれると知り本当に嬉しかったです。

デンマークでの学校はとても大きく綺麗で、生徒全員がノートを持たず、パソコンで授業を受けていました。また、積極的な人が多く、自信を持って自分の意見を言えていて、本当にかっこいいなと思いました。普段デンマーク人はデンマーク語で話していますが、全員英語も話せるので、私たちもコミュニケーションを取ることができました。

放課後は日本の友達も交えてボーリングへ行ったり、買い物をしたり、カフェに行ったりしました。この時間は唯一日本語が話せる時間だったので、今日あった出来事を友達とたくさん共有し合いました。特に思い出に残っているのは、夜 8 時くらいにみんなで学校のスクリーンで映画



を見たことです。各自お菓子や飲み物を持ってきて、ドラえものの映画を楽しみました。

また、ホームステイの期間に私の誕生日があり、盛大に祝ってもらいました。誕生日の日には自分家の庭にデンマークの国旗を立てるそうで、私の誕生日の時も国旗を立ててくれました。さらに、親族がみんな来てくれ、パーティーをしました。家族みんなからプレゼントをもらったり、豪華な料理や巨大な手作りケーキも振る舞ったりしてもらいました。本当に最高の誕生日を迎えることができました。

今回の研修で自信を持ってコミュニケーションをとる大切さや、デンマーク人の温かさを知ることができました。また色々な初めての体験もさせてもらいました。これを楽しかった思い出として残しておくだけでなく、今後活かしていけるように頑張ります。そして、次ホームステイに来てくれる際には最高のおもてなしができるようにしていきたいです。

「幸せの国」

2年6組 岡 佳亮

正直始めはホームステイに少し興味がある程度の動機だったこともあり、デンマークに行くことが決まり、出発の日が段々と近づいて来た時、途轍もなく大きな不安が襲った。全て外国語の環境で英語が不得意な自分が上手くやっていけるのか。この不安はホームステイ前日のホテルの夜まで消えなかった。不安で眠れない中迎えたホームステイ当日、ホテルのエントランスでホストファミリーと話した時、少し不安が小さくなったような気がした。ホストファミリーは本当の家族かと思うほど温かく車の中でたくさん話しかけてくれた。初日はまだ自信を持って話す事ができず、家にいたトイプードルが唯一の友達であったが、伝えようとする気持ちが大切だと思い、段々と自信を持つことができるようになった。そう思うようになってから英語を積極的に話せるようになり、デンマークでの生活がとても楽しくなった。平日はホストファミリーと学校に行き、一緒に授業を受けた。学校は日本とまったく違い、少し戸惑ったが現地の友達もできて昼食と一緒に食べるなど学校生活を謳歌することができた。放課後はサッカー、バレー、トレーニング、バドミントン、ボーリングなどたくさんのスポーツや遊びに連れて行ってもらった。休日は学校の教室で映画を観たり、オールボーに買い物に行ったりした。映画では日本の映画を観て面白かったと言ってもらえたのが嬉しかった。オールボーではお土産やデンマークの物をたくさん買うことができた。



ここまで充実した生活は日本には無いのかもしれないとさえ思うぐらい楽しい数日間だった。次は自分がホームステイを受け入れる側になるので、今回受けた恩を日本特有の食べ物や遊び、学校生活でしっかりと返せるように準備を進めて行きたい。そして、今回のデンマーク研修で学んだ英語や異文化について受験勉強などの今後の人生に活かして行けるように、日々精進して行きたいと思う。

「今回の研修を終えて」

2年6組 岡本 太一

今回の派遣の研修を終えて、思っていた以上（というよりも想像していなかったほどの）貴重な経験を得ることができました。その中でも特に記憶に残っているのはデンマークの人たちの人生の考え方です。



私はホームステイ先のホストファミリーと一度、日本とデンマークの国民性について（確か来訪してから5日目の夜に）、談笑を交えながら移民問題などについて話し合ったのですが、その際に“卒業後のお互いの将来について”の話になり、私は大学に進学すると答えたのですが、相手は「ヨーロッパを2年くらい旅してから進学か就職する」と話してくれたのです。私はとても驚きました。とても興味を持ったので詳しく聞いてみたところ、デンマークでは至って一般的だとの事。私は日本ではそのようなことをする人はかなり少ないと話したところ、相手はとても面白い話をしてくれました。彼が言うには、「デンマーク人はのんびりした人が多いからこういうことが一般的だと思う」と語ってくれました。この時、私は「なぜデンマークは国民の幸福度が世界第2位なのか」の理由が分かりました。日本人とは違い、ストレスが少ない生活をしているからではないかと。思えば殆どの日本人はかなりストレスの重い生活を送っていると思います。実際に自分もあと8ヶ月ほどで共通テストを受けなければいけないため、常に受験勉強に追われる身ですし…。

個人的な意見ですが、先程のような話や人々の生活や文化、国民性などを見聞きして感じることは、ガイドブックを読んだりネットで調べたりするだけでなく、実際にその場所へ赴き、現地の人たちの話を聞いてみないと本当のことを知るのは難しいと思います。このような「世界を見ることの面白さ」を教えてくれた今回の研修は、私にとって人生の価値観が変わった非常に貴重な体験となりました。この場を借りて、今回の研修に携わってくださった全ての方々に申し上げたいです。「本当にありがとうございました。」

「デンマークでの日々」

2年6組 柏木 洋一郎

ホストファミリーと会う前は自分の英語力できちんと話せるか不安に思っていたが、コミュニケーションをとっている時にそこまで自分の英語力の不足を感じることはなかった。出会う前の不安とは逆に、スムーズに会話をするのができすごく自信になった。また、もう一つは楽しくコミュニケーションを取れるかどうかを不安に思っていたが、最初の迎えの車中から会話を途切れせず楽しめたし、この研修中ずっと良いコミュニケーションを取れたと思う。初めの方



方はホストファミリー側から質問など話しかけられることが多かったが、徐々に僕も慣れてきて自分から話しかけることも増えていき、仲を深められた。このように、僕が一番不安に思っていたコミュニケーションの面については完璧とはいかないものの全体的に見て自分の自信につながるものだった。デンマークの生活については、スポーツや観光、観戦などホストファミリーが毎日何かを企画してくれ、放課後を楽しめた。また、他の生徒のホストファミリーとその生徒と一緒に遊ぶことが多く、特に男子全員で放課後を過ごすことが多かったので、他の生徒のホストファミリーと交流することもできた。全体を通して自分たちを楽しませようとしてくれたおかげで、僕たちは良い経験をできたと思う。初めての海外渡航ですごく不安はあったけれど、すごく楽しめたし、学びのある日々を送ることができた。

「デンマークの生活を経験して」

2年6組 玉置 みう



私は今回のフレデリクスハウン高校への訪問、ホームステイを経験して、日本との文化の違いや、デンマークと日本両方の良いところを実感することができました。

ホストファミリーに初めて会ったときは、自分は海外でホームステイするのだという実感が湧いてきて、緊張しましたが、とてもわくわくしました。その日は、デンマークの歴史や教会、宗教についてたくさん教えてもらいました。難しい単語が多くて、理解できないことの方が多くて心が折れました。しかし、夜ご飯のときには自分たちの性格を紹介してくれて、とても面白かったです。私はアレルギーを持っていると言っ

ていたので、毎日部屋を掃除してくれ、気にかけてくれました。弁当も作ってくれて、嫌いなものがあれば残したらいいよと言ってくれました。デンマークでは、嫌いなものは食べないという考えがあるそうです。過ごしていくなかで、私の英語の発音が間違っている時があり、伝わらないことがよくありました。自信がなくなって聞かれたことを答えることしかできませんでした。しかし、ホストファミリーは、私が英語で話すと真剣に聞いてくれたり、大きなリアクションをとってくれたりしました。そのおかげで、会話するのが楽しくなって、自分から話しかけたり質問したりすることができました。ホストファミリーの妹の子は英語が話せないため、家族同士ではデンマーク語で話しているときの方が多かったです。デンマーク語はなににも分かりませんが、状況を考えると、何を言っているのか分かるような気がしました。英語も同じで分からない単語があったとしても、絶対に理解するという気持ちが大事だと気付きました。

また、デンマークの学校生活はとても心に残っています。1教科90分という長い時間ですが、毎日昼頃で終わります。授業形式は、全員がパソコンを広げていて、好きな場所で好きな友達と出された課題を終わらせるような感じでした。ノートやペンを持っている生徒がおらず、グループ活動や先生と口で話すコミュニケーションが主でした。もちろん全て英語なので大変でしたが、貴重な経験をしました。放課後は、ボーリングをしたり、行きつけのカフェに行ったり、ショッピングしたりして楽しみました。プランを考えてくれていて、とても充実した日々を過ごせました。テンションが上がるとその分話したい気持ちが高まったので、より仲が深まった



と思います。部活動は日本ほど盛んではなく、週に1回程度でした。私はブッククラブに参加させてもらいました。学校近くにある図書館の地下で、先生含めみんなでお菓子を食べながら、本について話し合いました。英語で書かれた本も貸してくれました。私が特に印象深かったのは、夜に学校で過ごしたことです。夜8時頃に教室に大きいクッションやソファを運んで、プロジェクターに生徒のパソコンを繋いで日本の映画を大画面で見ました。また、体育館でバレーやバドミントンをしました。スピーカーから音楽を流して、とても楽しかったです。日本では、学校で自由に好きな時間に好きなことするのは考えられないので、海外の高校生活を経験することができてとても嬉しいです。私のロマンがたくさん詰まっていた学校生活でした。

今回の研修とホームステイを通して、英語以外にもたくさんのことを学びました。私の英語能力が上がったのかは分からないけど、英語で人と話す不安感がなくなり、現地の人のように自分から話しかけられる積極性がついた自信があります。また、英語で話すためにもっと勉強したいと思うきっかけにもなりました。デンマークの方たちは本当に優しく、ほとんどの人が町中で、中には話しかけてくれる人もいました。また、私はアジア差別を1回も経験しませんでした。このように、ずっと現地の方々の温かみを感じ、寂しいと思うことがありませんでした。受け入れてくれたホストファミリーや学校に感謝し、今回学んだことをこれからの生活に活かしていこうと思います。

「デンマークまとめ」

2年6組 中村 壮太

デンマークの人々と話し、デンマークの自然を感じ、デンマークの文化を楽しむ。僕はデンマークに行けてとてもよかったと思います。デンマークの食事はとてもおいしくて特にホットドッグが最高に美味でした。ホストファミリーがホットドッグを晩御飯として出してくれたので、とてもうれしかったし、美味しかったです。そして、デンマークの自然は日本と同じようにきれいで、特に巨大な大木のオブジェがある川は、とてもきれいで、目を奪われました。また、二つの海流が合流するデンマーク最北端の場所にも行きましたが、とても美しかったです。デンマークの授業はとても難しく、まったくと言っていいほど理解できませんでした。しかし、先生方はとてもやさしく、特に歴史の授業では、サッカーを授業中にさせてもらってとても楽しかったです。全員がパソコンを使っており、日本でも、授業、宿題などをパソコンでできるようになったらいいなと思いました。デンマークの美術館にも行き、たくさんの絵画や作品を見ることができました。それら一つ一つがとてもきれいでした。デンマークの娯楽はとても楽しかったです。サッカーをしたり、バドミントンなどをしたり、時にはボーリングにも連れて行ってもらったりしました。教室で映画を見たときには、背徳感があり、とても楽しかったです。デンマークの人々はみな優しく、人情に溢れていました。



「デンマークの家族」

2年6組 村上 ななみ



私は英語を上手に話せたわけではないのですが、デンマークに行きたいという一心でデンマークに行きました。しかし、デンマークに行く1週間前は英語を上手く話せないのを自覚していたので不安になっていました。周りの友達はとても楽しみだという子が多かったので、自分も楽しみだと思い込ませていました。前日にはすでにホームステイを受け入れてくれるデンマークの家族と連絡を取り合って仲良くなっていたので、不安は減っていました。13時間ととても長いフライトで、身体がとてもしんどかったのですが、デンマークの家族が笑顔で受け入れてくれたときにはすっかり身体は元気になっていました。初めて出会った瞬間とても緊張して

いましたが、ホームステイ先の家族が私に挨拶をしてくれたとき、とても嬉しかったです。車で空港から家まで向かっているときは、たくさんお喋りをしました。半分は聞き取れていなかったのですが、その場の雰囲気こんな内容かなと思いながら聞いていました。家に着くと、すぐにプールに行きました。次の日は学校に行きました。デンマークの学校では一人一人が持っているパソコンを授業中にフル活用していて、凄いなと思いました。また、学校の中でたくさんのSDGsが行われており、私たちの学校もやっていくべきだと学びました。ローカで出会うデンマークの人たちは笑顔で挨拶をしてくれ、とても嬉しかったです。帰ったら、ホームステイ先の父が夜ご飯を作ってくれ、とても美味しかったです。白いご飯を出してくれ、デンマークでも白ご飯を食べるのだとびっくりしました。他の日にはデンマーク料理を作ってくれました。学校では、体育館に集まって歓迎してくれた際に歌ってくれた歌がとても耳に残り、日本に帰ってきてからも良く聞き、デンマークでの出来事を思い出したりします。セレモニーパーティーでは、デンマーク料理を食べながらみんなでお喋りをしたり、私たちがパワーポイントを使い、日本について紹介したり、校歌を歌ったり、ダンスをしたりしてみんなで楽しみました。休日にはオールボーに買い物に行き、色んなデンマークのものを買いしました。デンマーククローネでの買い物はとても手こずりました。それも1つの思い出です。夜はよく体育館でみんなでスポーツをし、仲を深めるきっかけになりました。帰り際には、後悔や悲しみで涙が止まりませんでした。私の仲での後悔とは、英語を上手く話すことができず、学校の行き帰りの車で無言の時間になってしまっていたことでした。このことをきっかけに英語をもっと勉強することを決意しました。次は10月に日本を訪れてくれてホームステイをするので、そのときまでには上手くしゃべれるようになりたいです。デンマークでの生活を通して、もう一度デンマークに行き、今度は長い間留学をしようと思いました。

「デンマークでの交流を通して」

1年2組 森口 園乃子



私はデンマークでホームステイしている間、毎日が新しい発見で溢れていたと感じています。私にとって今回の機会は初めての海外で、わからないことが多いことへの不安なより、訪問した後のホームステイやその他の交流へのわくわくが上回っていました。

長いフライトを乗り越えた次の日、私のホストファミリーと対面しました。初日には、他の日本人2人とそのホストファミリーの6人とで

プールに行きました。日本のプールでは水着を着て冷たいシャワーを浴びますが、デンマークでは最初と最後に裸でシャワーを浴びます。私はその衝撃的すぎる光景が信じられませんでした。初めの頃は日本人の3人で恥ずかしがっていたのですが、最後にはすっかり慣れてしまって全く気にならなくなりました。デンマーク研修で受けたカルチャーショックの中でこの出来事に勝るものはありませんでした。

私のホストマザーは料理がとても上手で、ホームステイ中、たくさんのデンマークの伝統料理を振舞ってくれました。ラザニアやフリカデラ、オープンサンドイッチなどなど、初めて食べるものや見たことがあるものもありました。初日のお昼ご飯の時、「食べられないものや食べたくないものは、食べないでいいからね。それがデンマークのルールだから。」と言われました。日本では、好き嫌いは良しとしない風潮がありますが、デンマークではとても好き嫌いに寛大でした。デンマークはお菓子がとてもおいしか



ったです。クッキーやチョコレート、グミにキャンディなどをたくさん食べました。でも、甘草というものが入ったお菓子は口に合いませんでした。

最後の日にはホストファミリーと灯台に行きました。最終日はとても寒くてたくさん雪が降っていました。灯台の上から見ると雪がたくさん積もっていてとてもきれいに見えました。お別れの日はとても悲しくて、自分が思っていたより 10 日はとても短くて、でもたくさん思い出を作るには十分な時間だなと感じました。ホストマザーと家でお別れをした時も泣いてしまいそうになって、涙をこらえるのがとても大変でした。学校でお別れするときは、もうこらえられなくてとても泣いてしまいました。来てすぐの時は日本と比べたり、日本のようにスムーズにいかないことがもどかしかったり、不満を感じたりしていたのに、帰る頃にはむしろ帰りたくなくて、もっと長くいたい、もっと過ごしたいと感じていました。

初めて海外に行って、日本の環境はいかに整えられているのか、言葉がスムーズに通じるということはどうほど楽で生きやすいかを知ることができました。でも、また海外に行きたいと思ったし、たくさんの新しい経験ができてとても楽しかったです。

「デンマークと日本の違い」

1 年 4 組 池田 明州哩

僕は、デンマークに留学に行く前、デンマークの正確な位置（正しくは、ユトランド半島の北部、スカンジナビアに位置する）を知りませんでした。関西国際空港からアムステルダムスキポール空港を経由して、オールボー空港に到着しました。オールボーのホテルで 1 泊した後、朝の 9 時半頃、ホームステイ先の方が家まで送ってくれました。

留学に行った醍醐味はホームステイができることだと思っていたので、非常に楽しみにしていました。家庭での生活は僕を驚かせました。また、デンマークは行く前から国民の幸福度はかなり世界でも上位で、2 位と聞いたことがありました。ちなみに 1 位はフィンランドで、日本は 62 位です。（出典：国連『World Happiness Report 2020』）

また、フレデリクスハウン市長の表敬訪問をしたときには、国民と国とが連携して、大きな政府として機能していることが改めてわかりました。税率が 25% と高くても国民は政府を信頼し、良い国家を築いているなと思いました。また、デンマークの学校では、教育の水準は思ったよりも高くなかったけれど、授業は生徒の主体性を求めている、先生がただ教えるのではなく、時々、教室の外へ出て、班で話し合い、自分の意見を言うことが多かったです。日本の受動的な授業と比べて、大きく異なりました。

他に、デンマークを含めたヨーロッパ諸国は、他に比べて労働時間が短い傾向にあることが分かりました。これにより、家族が家にいる時間が長くなり、団らんといった機会も増えるのではないかと思います。家族と一緒に家で楽しく過ごせるフュグゲの場があるというのは、国民の幸福度に多いに関係していると思いました。また、ヨーロッパでは遺伝子組み換え食品を全く使っておらず、安全な食品ばかりでした。デンマークは人口が日本の 20 分の 1 という規模でありながら、農業や IT の先進国である点が改めて分かりました。



「デンマークでの生活」

1年5組 聶 千恵



デンマークでの生活は日本と明らかに違うものでした。馬があらゆる場所にいたり、ご飯にお米があまり使われていなかったり、授業中の挙手が活発だったりなど、色々なカルチャーショック受けました。最初はドキドキと不安な気持ちでいっぱいだったけど、現地につくと次の日ホストファミリーが迎えに来てくれました。

授業は基本的にデンマーク語で進めていたのであまりわからなかったけど、みんなしっかりと自分の考えを発表していたので私もそれを見習いたいと思いました。宿題で私をかまっていられない時は、お父さん

や妹が観光地に連れて行ってくれたり、家族でゲームをしたりしてくれました。そのほかにもバレーに連れて行ってくれたり、美味しい料理を作ってくれたり、最高の11日間でした。一生忘れない大切な思い出です。

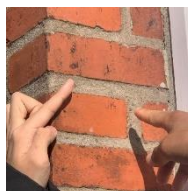


【デンマーク研修の記録】

フレデリクスハウン高校・授業交流



クヌッセン機関長が育った家訪問と墓参



フレデリクスハウン市長表敬訪問と市内見学



海軍・海兵隊
施設見学



スケーエン見学



送別会とお別れ



海外研修

ベトナム研修

7月26日(水)から7月30日(日)まで、日越外交関係樹立50周年記念 和歌山県高校生派遣事業に本校生徒3名が参加しました。

派遣団は和歌山県内7校の高校生19名からなり、ダナン市やホイアン市を訪れました。ベトナムの高校生との交流や、日本人の高橋淳子さんの遺志によって建てられた小学校での植樹活動、環境及び防災に関するプログラム等を通して、互いの国を理解し合い、環境保護や防災に関する意識を高め、友情を育むことができました。

1. 趣旨

本派遣団は、和歌山県知事一行のベトナム友好訪問に際し、日越外交関係樹立50周年を記念して和歌山県内の高校生をベトナムに派遣するものである。植樹活動、環境及び防災に関するプログラムやベトナムの高校生の交流等を行うことで、参加者の環境保護や防災に関する意識を高め、日越青少年の相互理解と友好促進を図ることを目的としている。

2. 日時

2023年(令和5年)7月26日(水) — 7月30日(日) (現地3泊、機中1泊)

3. 研修先

ベトナム社会主義共和国(ダナン市、ホイアン市)

4. 主なプログラム

	日付	内容
1日目	7/26(水)	南紀白浜空港からダナン国際空港へ(チャーター便 ベトジェットエア) 着後、在ダナン日本国総領事館表敬訪問
2日目	7/27(木)	レクイドン高校訪問・交流 チャム博物館見学、環境保護に取り組むGlassia社見学、 ミーケービーチ見学
3日目	7/28(金)	ジュンコ小学校訪問交流・植樹活動 ダナン大聖堂、五行山、クアンテーム寺内の美術館見学
4日目	7/29(土)	ホイアン旧市街参観 ホイアン市日本橋地域水質改善計画のプロジェクトサイト見学 クアンナム省主催昼食会 ソンチャー半島リンウンパゴダ見学 深夜、ダナン国際空港発(チャーター便 ベトジェットエア)
5日目	7/30(日)	南紀白浜空港着、解散

5. 研修団

参加生徒：3年生1名 2年生2名 計3名 引率教員：1名

3年：片山 嶺奈 2年 本田 亥節 吉村 晃 引率教員：菊地 貴子

【参加生徒による感想】



3年4組 片山 嶺奈

この行事を通して様々な点で成長することができたと思います。多くのこと見聞きし、体験し、刺激を受けることで視野がとても広くなりました。ベトナムを訪れる前から世界は広いということはもちろん知っていましたが、実際日本から一歩も出たことがなかった私にとって世界は私の想像をはるかに超える広さだということを知りました。私が知っていた世界は、日本という小さな島国に過ぎなかったのです。

私たち派遣団はベトナムのダナンというリゾート地に宿泊していたので、ベトナムはとても綺麗で明るくて、活気のある過ごしやすい国だとばかり思っていました。バスで数十分ほど揺られていると街並みが一変しました。バスの外には、お店や病院が見当たらず、扉もなく今にも吹き飛ばされてしまいそうな家や、濁った川など、とても過ごしやすいとは言えない景色が広がっていました。同じベトナムという国で、たった数十分ほどしか離れていない地域なのにこんなにも違っていることに驚きを隠せませんでした。

この体験を通して物事の一部分だけを見て決めつけるのではなく、全体を見て判断することの重要性を学びました。まだまだベトナムについて知らないことは沢山ありますし、日本についても知らないことは沢山あります。日本に住んでいるからと言って、ベトナムに行ったことがあるからと言って、知った気にならないで今後も積極的に学びたいと思います。この行事を通して得た様々な知識、経験を今後の活動に最大限に活かしたいと思います。



2年6組 本田 亥節



今回は人生で初の海外訪問だった。そして飛行機も初めてだったので、離陸する瞬間はとても胸が高鳴った。ベトナムに着いてすぐに感じたのは、やはりダナン特有の気候である。飛行機に乗る前にいた白浜空港と比べじめじめとした暑さがあり、当初は自分がこの気温に耐えられるのかという不安に駆られた。しかし、それはさまざま施設に行くうちに慣れることができ、視察に集中できてよかった。

1日目は在ダナン日本国総領事館にてダナンについての説明を聞いた。ある程度予習をしていたつもりだが、やはり知らない情報もたくさんあった。2日目で印象的だった。

たのはレクイドン高校の訪問である。同年代のベトナム人高校生と話すことができ、ベトナムの流行についてもより深く知ることができた。3日目で印象的だったのはジュンコ小学校訪問である。漢字で紙に名前を書いたり、折り紙で手裏剣を折ったりすると子供たちが喜んでくれ、こちらも嬉しくなった。4日目で印象に残ったのは



下水処理場訪問である。濾過や様々な機械の仕組みを詳しく教えてもらうことができ、自分の見聞を広めることができた。他にも、ホテルの綺麗さや友達との交流など楽しむことがたくさんあり、今回の海外研修を通してとてもいい経験ができた。これからも機会があれば他の国も訪れ、視野を広げてより国際的に物事を考えられるようになりたい。



2年6組 吉村 晃

自身が個人的に最も興味があった、日本との生活や食事、考え方の違いについては、本当にたくさんの驚きを感じることができた。ベトナムのどこへ行っても香るスパイシーな香りや、日本に比べ整備がされていない道路を大量のバイクがクラクションを鳴らしながら走り回る光景は、まさに外国を実感させるものであり、帰国した今でも鮮明に思い出される。それと同時に、日本のインフラ整備の素晴らしさ、生活水準の高さも再認識させられる形となった。そうは言っても、根強い宗教文化からくる派手な寺院や真面目で賢い性格など、日本がベトナムから学べることはまだまだたくさんあるようだった。

今回、和歌山県内の高校生たちとの交流も外せない良い経験だった。他校の高校生と5日にもわたって深く交流したのはもちろん初めてである上に、選考で選ばれた人たちということで、コミュニケーション力に富んだ人たちばかりという印象だった。特に、彼らのベトナム人に自ら進んで話していく姿勢や、初対面の私に対しても気軽に話しかけてくれる様子から、まだまだ未熟な自分に気付かされた。このメンバーでなければこれほどまで良い思い出にはならなかったと心の底から思う。他にも、環境保護に関するプログラムにも参加させていだいた。見学したのは Glassia 社。ベトナムでは日本と違い水道水が飲めない環境にあるため、飲料水を買わなければいけない。そこで、現地ではビンをリユースすることで環境に配慮しながら水を販売するというを行なっているそうだ。この見学で最も驚いたのは、その見学させてもらった工場がゲー



ムセンターの横にあり、ガラス張りで誰でも見られる構造になっていたことだ。Glassia 社の方によると、自分たちの活動を知ってもらうにはこれがベストなんだそうだ。環境問題に取り組もうとするその熱心さに思わず感動した。その後、日本が資金援助してできた下水処理場にも行ってきた。設備が整っていないベトナムでは、このような資金援助は大変助かるそうだ。この2つの見学から、今まで考えたこともなかったが、海外で現

地のために働くのも悪くないと感じた。こんなことは身をもって海外で感じなければ思いつかなかったと思うので、知見が広がったという意味で重要なことを学ばせていただいたと感謝している。

3泊5日と海外派遣にしては短い期間だったように思えるが、一生記憶に残る思い出となった。いただいたこの機会と経験をこれからの社会や将来の自分に役立てるよう、これからも精進していきたい。

【ベトナム研修の記録】

和歌山県知事一行による激励



レクイドン高校



ジュンコ小学校



ドラゴンブリッジ



ホイアン旧市街
と日本橋



五行山と
リンウンパゴダ



【スペイン研修】

本研修は、和歌山県とスペイン・ガリシア州が主催する派遣プログラムで、本校から1名が参加した。

1. 目的

- (1) 和歌山県の青少年の代表として、世界文化遺産「熊野古道」と姉妹道関係にある「サンティアゴ巡礼道」を有するスペイン・ガリシア州を訪問し、現地の人々との交流や文化紹介等を通じて友好親善を図る。
- (2) 県内および現地での研修プログラムを通じて、日本とは異なるスペイン・ガリシア州の文化・習慣について理解を深めるとともに、現地での異文化体験を通じて、グローバルに活躍できる人材を育成する。
- (3) 日本とスペイン二国間の相互理解の促進と友好関係の発展に寄与する。

2. 派遣先

スペイン王国ガリシア州（サンティアゴ・デ・コンポステーラ市）、マドリード市

4. 主な現地プログラム

日程：令和6年3月3日（日）－11日（月）9日間（現地滞在7日間）

内容：①熊野古道と姉妹道提携をしている世界遺産「サンティアゴ巡礼道」散策
②「サンティアゴ・デ・コンポステーラ旧市街・大聖堂」「巡礼道博物館」等見学
③ガリシア州政府表敬訪問
④ガリシア州での学校交流
⑤マドリード市内視察

5. 参加生徒

2年生1名 有邊 壮馬

【参加生徒による感想】

スペイン・ガリシア州への派遣を通じて

2年6組 有邊 壮馬

私たちは今回の派遣でスペイン・ガリシア州を訪れた。スペインを訪れて、日本との違いがたくさんあった。

1、スペインの街並みと自然

まず、スペイン・ガリシア州を訪れて最初に感じたことが日本との街並みと自然の違いだ。ガリシアを散策していて、教会が多くあることが分かった。これはスペインでもっとも信者の多い宗教はカトリックであることが関係していると思う。また、建築物はレンガで出来ているものが多く見られた。特にサンティア





ゴ・デ・コンポステーラ大聖堂付近の建物はレンガが多く使われていた。他にも、ア・コルーニャ地方ではガラス張りの建築物が多く見られた。これはア・コルーニャの気候に関係している。その地域の冬は長く寒いいため、太陽光の暖かさを生かしている。

このようにスペイン内でも建築物の特徴が違ってくるのが分かる。また、街を少し出ると草原が広がっているのを見ることができた。その広い土地を生かし、ニワトリや牛、馬を飼っている家を見ることができた。日本との地理的違いを確認することができた。

1、サンティアゴ・デ・コンポステーラ大聖堂

今回、熊野古道と姉妹道であるサンティアゴ巡礼道を散策した。大聖堂を訪れる前に研修で写真を見せてもらっていたが、実際に目の当たりにして圧倒された。このような大きな教会は日本では見ることができないので、とても印象に残っている。この大聖堂には世界の様々な



地域から巡礼者が訪れるようで、フランスから続くフランスの道などたくさんの巡礼道がある。それが大聖堂の前で1点に重なっている部分がある。そこでは、たくさんの巡礼者が写真を撮ったり、寝転がったりして、到着を喜んでいて、大聖堂を何度も訪れ、参拝することによって天国に行けると言われているそうだ。これは熊野古道を巡礼するのとはよく似ていると感じた。

2、現地の方との交流

今回の派遣で、ガリシア州の学校を訪問した。そこでガリシアの高校生と交流した。私の高校に海外の高校生が訪問してきたことがあり、そこで外国人と交流したことはあったが、実際に海外に行き、その人々と交流したのは初めてだった。交流する前はとても恐怖を感じていた。しかし交流してみると、とても優しく話しかけてくれた。他にも街中で交流したときも、差別することなく丁寧に答えてくれた。おかげで私も怖がることなく、積極的に現地の人々と交流することができた。



・派遣を終えて

今回の派遣で海外に対するイメージがとても変わった。日本は世界では比較的安全な国である。だからこそ、海外に行くのはとても不安があった。しかし、とても治安が良く何事も無かった。これを機に、他の国にも訪問したいと思った。

その他

台湾桃園市立壽山高級中学来校

4月19日に学校交流のため、台湾の桃園市立壽山高級中学の生徒33名、教員4名が来校しました。体育館で行われた歓迎集会では、本校生徒が校歌や箏曲演奏を披露し、台湾の生徒は歌やダンスのパフォーマンスを行いました。その後、授業に参加し、放課後には書道、箏曲、弓道、「泡の会」のクラブ活動に参加しました。

【生徒による感想】



2年6組 寺井 巴菜

最初の歓迎レセプションでは、台湾の生徒の日本語の上手さに驚いた。日本人でも驚くような言葉を使い、なめらかに喋っていた。これほど日本語をしっかりと学んでいるのは素晴らしいと思う。また、「恋ダンス」をしてくれて場を盛り上げてくれた。歌もダンスも上手く、たくさん練習してくてくれたのだと思う。台湾の体操のようなダンスも気になった。学校に入ると必ず習

うと言っていたからだ。動きが簡単そうだったので私も踊ってみたい。

その後、訪問団のみなさんと一緒に昼食をとった。日高高校へ来てくれたのは来日して3日目で、和歌山城や白浜、橋杭岩に行ったと言っていた。一番楽しくて印象的だったのが、日高高校でダンスをしていたときと話してくれたので、とても嬉しかった。

放課後、数人とインスタグラムで繋がれたので、メッセージを送り合った。台湾の生徒はメッセージを送るとき、とても丁寧で礼儀正しかった。また彼らが日本に来たときや、私たちが台湾に行ったときは、ぜひ会いたい！！楽しく充実した国際交流だった。

3年2組 木村 朱李

台湾の方々との交流する機会は初めてだったので、不安もあったけれど、来てくれたみなさんが親しく接してくれて、初めて会ったとは思えないぐらいでした。一緒に昼食をとりながら自己紹介をしました。趣味や好きな食べ物など色んなことを共有し合って、盛り上がりました。台湾の生徒は一人ずつ名刺を作っていて、たくさんの人から個性溢れる名刺をもらいました。昼食後、たくさんの人と話をしたり、写真を撮ったりして楽しい時間を過ごしました。放課後、私は書道部へ案内しました。作品制作では、自分の名前を美しく書いていました。別れる前に大勢の人からたくさんの台湾のお菓子やお守り、そして台湾で使える十円玉をプレゼントしてもらいました。



今回、コロナも随分収まって本格的な国際交流に参加でき、とても良い経験ができました。日本とはまた違った文化や言語に触れることができて、楽しかったです。日本語で「ありがとう」とお礼を言ってもらえたときは、とても嬉しかったです。優しく笑顔で接してくれた台湾の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです！

アジア・オセアニア高校生フォーラム 2023

このフォーラムは、国際社会に活躍できる人材の育成とアジア・オセアニア諸国の友好親善を目的に2015年から実施され、今回で9回目、コロナ禍のため対面では、4年ぶりの開催となりました。

日高高校は毎回参加しており、今回は2年生5名が参加し、発表に運営にと大活躍しました。

1. 趣旨

本県の高校生が、アジア・オセアニアの国・地域の高校生とともに、世界共通の諸課題や観光・文化等について意見交換し、グローバルな視野で物事を捉える力を養う。また、自らの考えを相手に伝える機会を通して、国際社会で活躍できるリーダーの育成を図る。

さらに、本県の高校生が、和歌山の文化遺産等に触れ、他国等の高校生と相互理解を深めるとともに、郷土への愛着と誇りを育む機会とする。

2. 日時

2023年（令和5年）7月29日（土）－ 8月2日（水） ＊7月29日は海外からの参加者対象

3. 県内外（高校）からの発表参加者

インド／インドネシア／オーストラリア／ニュージーランド／韓国／中国／台湾／香港／タイ／ベトナム／カンボジア／フィリピン／ブルネイ／マレーシア／ラオス／ミャンマー／モンゴル／東京（帝京）／岐阜（可児）／京都（紫野）／岡山（清心女子）／高知（中村）／向陽・粉河・耐久・新宮・開智・信愛・日高

4. 3泊4日の主なプログラム

7月30日／世界遺産高野山研修ツアー 7月31日／開会式・参加各国紹介 8月1日／分科会
8月2日／全体会・県知事主催レセプション ＊その他 分科会、全体会打合せ、交流会

・分科会（津波防災・環境・ダイバーシティ・教育・食料）

5つのカテゴリーにおいて、国・県内外の生徒たちがプレゼンテーションを行い、一般参加の高校生、FLT、教員からの質疑に懸命に応答。本校発表者の橋本君は、The gap between disaster prevention awareness and disaster prevention actions . What will you do? をテーマに「必要最小限の事前対策と避難行動、高校生が主体となった防災啓発活動」を柱とした発表と質疑への応答を行った。

5. 参加生徒〔担当〕

2年6組：5名

稲葉 陽祐〔全体会司会・開会式進行〕

柏木 洋一郎〔開会式司会・全体会運営〕

寺井 巴菜〔全体会発表者・分科会記録〕

中村 壮太〔全体会発表者・分科会記録〕

橋本 昊征〔“津波防災”発表者〕

【参加生徒による感想】

アジア・オセアニア高校生フォーラムで学んだこと

2年6組 稲葉 陽祐

私は、アジア・オセアニア高校生フォーラムで、海外の環境問題の現状とその対策について学んだ。また、英語での発表や交流があり、英語力も養うことができた。このフォーラムでは、私は津波の講演を聞いた。その中で、私はアジア、オセアニアの各国での津波の対策を学ぶことができた。台湾の発表では、しなる素材や地盤のことなど様々な要因について学んだ。さらに和歌山県内、県外、海外の方との英語での交流を通じて、異なる文化や方言について学ぶことができた。その交流で一番心に残ったのが、高知県の方の話であり、その方言には過去完了の意味合いがあるそうだ。さらに、フォーラム当初、英語が聞き取りにくいと感じていたが、文意がわからないところは自身の解釈を基に別の単語で表現し、文意を確認した。これらのことを通して、英語を正確に聞き取り理解する能力を得ることができたと思う。コミュニケーションでは相手の意図をくみ取るのが大切だと考えているので、この能力は英語でのコミュニケーション能力の中で最も大切な力であると思う。これらの能力が、将来的に英語でのコミュニケーションをより円滑にすると考える。



アジア・オセアニアフォーラム感想

2年6組 柏木 洋一郎

今回のアジア・オセアニアフォーラムでは開会式を担当した。その司会の練習の時、初めは英語の発音をできるだけよくして流暢に話すことを意識していたが、練習に付き合ってくださった先生方から、それよりも自分が伝えたい情報が聴衆にきちんと伝わるのが一番大切だと指摘していただいた。そのために抑揚や少し遅めのスピードで原稿を読むことを意識した。その意識のおかげで納得できる開会式の司会ができ、このことから流暢さももちろん大事だと思うが、英語での発表も日本語でするものと同じように、相手に伝えたいことがより伝わりやすいよう工夫することが一番大切だと思った。

また、本フォーラムでは司会という仕事だけではなく、交流の面で学ぶことも多くあった。最初はきちんと外国の生徒と会話ができるか不安だった。しかし、自分の英語力不足を感じる場面もありながら、身振り手振りで言葉以外のことを駆使しながら会話をすれば、十分に交流を楽しむことができた。ノンバーバルコミュニケーションの重要性を実感した。しかし、それありきの会話では100パーセントの意思疎通は不可能だと思うので、これからも自分の英語力向上のため精進していきたいと思う。

全体を通して、始まるまでは何かと不安はあったが、周りに助けられつつ、これからの自分にとって有意義な発見がたくさんあり、良い経験になった。



「アジア・オセアニア高校生フォーラムに参加して」

2年6組 寺井 巴菜



私はアジア・オセアニア高校生フォーラムに参加して、本当に貴重な経験ができました。学校内だけでは経験できない活動ができました。海外の同世代の方と交流できて本当に嬉しかったです。

まず感じた事は、コミュニケーション能力が大切だということです。このフォーラムでは日本の高校生、世界の高校生と英語で交流できます。私はこのフォーラムに参加するまでは英語力の不十分さに不安を感じていました。実際に参加者の英語での発表を聞いて、自分の言葉で要約するという大役を本当に務められるのか心配でした。さらに、海外の方と思うように話せないかもしれないと感じていました。しかし、参加者の方々と交流・活動していく中で、そのような不安よりも「楽しさ」がだんだん強くなっていきました。例えば、高野山

ツアーで海外の方とお話ししながら見て回る中で、私たち自身の学校や好きなものを話す事ができました。国際交流では、言語能力はもちろんですが、それよりもコミュニケーション能力が本当に必要なのだと実感しました。不安を感じていた英語に関しても、このフォーラムに参加した後、もっと英語力を高めたいと思うようになりました。



アジア・オセアニア高校生フォーラムでの友達と Instagram で繋がったので、今でも連絡を取り合っています。お互い母国語が英語ではないので、英語でチャットする事は非常に良い勉強になっています。今は、オンラインでフォーラムの期間だけでなく、その後も連絡を取り合い、近況報告ができます。そのようなツールを有効活用しながら国際交流を深めていきたいと思っています。これからも国際活動を頑張っていきたいです。

アジア・オセアニアフォーラム感想

2年6組 中村壮太

アジア・オセアニア高校生フォーラムで、いろいろな国の方々や、他の学校の方々と交流することで、普段思いつかないような発想に感心したり、自分も頑張らないといけないという刺激を受けたりしました。人との交流で、コミュニケーションの仕方なども知ることができました。今回のフォーラムを通して、意見の交換の大切さや、相手の意見の尊重が大切なことだと思いました。色々な考え方を知ることによって、もっと多角的に物事を読み捉えることができるようになったと思います。また、このフォーラムを



を通して社会問題について深く知ることができました。自分は、教育問題の発表を聞きましたが、今後の教育問題に対する解決策や課題を一から考えた発表はとても納得のできるような内容で、その発表で言っていた解決策が、今後の問題解決につながったらいいなと思いました。これからは、僕たちがフォーラムを通して学んだことを、次の時代へと繋いでいけるように、努力することが最大の課題だと思います。

「人と会うということ」

2年6組 橋本 昊征



私は昨年、ミャンマーの人々とのオンライン交流プログラムに参加した。そこでは、ミャンマーに住む日本領事館の方からお話を聞いたり、現地の学生と英語を使って交流したりした。英語を使い、会ったことのない海外の人々と交流したということは、今回のフォーラムの中での交流と何も変わらない。しかし、今回のフォーラムは私にとって、昨年のオンライン交流よりも価値のあるものだった。その2つの間には何の違いがあるのか。それは、実際に人に会ったかどうかである。

昨年のオンラインプログラムに参加した際に私は、今回のフォーラムと同じように英語で自分の考えを発信した。しかし、その相手というのは、どこか遠いところに住んでいる人、というような感じがした。相手の顔が見えるし、声も聞こえる。表情も何となく感じ取れる。しかし、それがパソコンの液晶の向こう側にあるだけで、目の前で会って話す時とは全く違って感じる。

当たり前のことはずだが、その当たり前を今回のフォーラムで初めて感じる事ができた。今やこれは、今の私を形作る大切な考え方となっている。

また、今回のフォーラムでは、海外の学生からだけでなく、同じ日本の学生から刺激を受けることもあった。私より英語が上手だった人も大勢いたため、私の英語に対する意欲も高まった。そして、少し遠いところから来ていた人と話していると、同じ日本でも和歌山とは全く違った話を聞くことができ、大変面白かった。

以上より、私が今回のフォーラムに参加して学んだことは、人と会うことの大切さだ。これからは一期一会の精神を大切にしていって、日々生活していきたいと思う。そして、いつか今回のフォーラムで会えた人ともう一度会いたいと思う。



第60回全国国際教育研究大会 愛媛大会



令和5年8月10日(木)愛媛県松山市で開催された第60回全国国際教育研究大会 愛媛大会での第12回高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会に本校生徒2名が参加し、「ミャンマーと日本の相互理解促進プロジェクト!」をテーマに発表を行い、国際理解・国際協力奨励賞を受賞した。

この活動は、昨年度11名の生徒が参加した「JENESYS2022 ミャンマー高校生オンライン派遣

プログラム」からの継続的活動である。オンライン派遣プログラムでは、在ミャンマー日本国大使館やJICAの方々からミャンマーの政治や文化、技術協力プロジェクトやボランティア活動の講義を受けたり、オンラインによる市内見学をしたりして、ミャンマーの日常生活や文化、風習、簡単なミャンマー語などを学んだ。また、オンラインによる生徒交流も行い、互いに文化を学び合い友好関係を築くことができた。

このプログラムを通してミャンマーという国のすばらしさを実感し、得た成果をさらに発展させ、より多くの人々にミャンマーを知ってもらい、小さな力でもミャンマーの助けになりたいと希望した2人が、さらなる活動を始めた。深刻な社会状況のミャンマーで何が起きているのか、自分たちは何をする事でミャンマーの助けになることができるのかを、和歌山県内に暮らしているミャンマーの人々と交流し情報を得て、さらにそれらを発信するという取組を行った。そして、これらの活動が全国国際教育研究大会 愛媛大会 高校生国際理解・国際協力に関する研究発表会への出場に繋がったのである。

同大会の第43回高校生英語弁論大会にも本校生徒1名が出場し、全国国際教育研究協議会会長賞を受賞した。

大会当日は台風の影響を受け、急遽オンライン開催となったが、非常に有意義で貴重な経験となった。



【参加生徒による感想】

「ミャンマーとの交流を通して」

2年6組 芝田 葵依



私は高校1年の時、「JENESYS2022 ミャンマーオンライン派遣プログラム」に応募し、高校生での初めての国際交流を行った。新型コロナウイルス感染拡大の中、ミャンマーとの交流はオンラインで行われた。市内観察や現地の人たちのお話、JICEとJICAの人たちのお話を聞き、日本は

ミャンマーに向けて技術的な支援はもちろんのこと、人材派遣で根本的にミャンマーの問題解決に取り組んでいることを初めて知った。日本の国際的な在り方をとても誇らしく思えた。それだけでなく、ミャンマーの魅力あふれる伝統行事や、私たちの生活にはない習慣にとっても興味がわいた。例えばミャンマーで4月に開催される水祭りという、老若男女問わず誰もが互いに水をかけあう祭りは、ミャンマーだからこそ今世にまで受け継がれてきたのだ。しかもこの行事は今年テレビで放送されており、私はそのニュースを見てうれしく思った。また、ミャンマーの文化だけでなく、日本の文化に関しても新しく知ったことがあった。身近だからこそ気づけない日本の魅力も知ることができた。国際交流を通して、自国の魅力も他国の魅力も知ることができ、今後もいろいろな国と交流をしたいと思った。しかし、同時に、ミャンマーの抱えるたくさんの大きな問題と、解決にはまだまだ遠く及ばないということを知った。政治的にも経済的にも厳しい面があり、私たちはミャンマーの問題解決に共に尽力したいと考えた。そのためには私だけではなく、まずはミャンマーのたくさんの魅力をたくさんの人に知ってもらう必要があると思った。



そこで私たちは愛媛県で開催される全国国際教育研究大会にて、ミャンマーについてより多くの人に知ってもらうという目的で、私たちの活動を発表した。その際、近くに住むミャンマーの人たちと交流し、一般の人たちから意見を聞いた。その人たちは現地にいる家族を心配して生活しており、今のミャンマーを多くの人たちに知ってほしいと思っていた。大会では好成績は残せなかったが、たくさんの人たちに発表を通してミャンマーを知ってもらえたので、達成感を感じている。

やってみないと勇気を出して行った国際交流で、私は目的を達成するために重要となることを学んだ。それは目的を達成するための方法をできるだけたくさんしてみるということ、考えてわからないことは先に行動を起こしてみるということだ。そうして、今のうちにできるだけたくさんの経験を積んでおくことが、私たち学生が今すべき大切なことなのだと思う。私はミャンマーの魅力を知ってミャンマーの助けになりたい、もっと多くの人にミャンマーの魅力に気づいてほしいと思った。このように、1つの国の文化が他国の人の心を動かし、それが重なって今の社会の在り方につながったということ、この国際交流を通して体感した。今後、国際交流の機会はますます増え、いろいろな国と交流することができる世の中に移り変わっていくからこそ、今回の経験を大切にしたい。

2年6組 早田 朱里

【自分の成長を感じたことや自分にとってプラスになったと感じること】



発表準備にあたり、自ら行動を起こすことができた。まず自分たちで電話をして紹介してもらい、実際に会ってお話させていただけたときは嬉しかった。新たに SNS を用いて不特定多数の人々に情報を発信することができた。NGOの方とも連絡をすることもでき、自分から進んで行動する大切さや達成感を実感することができ、自身の大きな成長を感じた。本番は台風の影響でオンライン開催になってし

まったが、ほかの人の発表の仕方やパワーポイント作成の仕方など学ぶことがたくさんあった。

【感じたこと、反省と成果】

今回のプログラムを始める際、昨年度の JENESYS プログラムで得たことを再び考え直すことができ、必要なことは何かについて考えることができた。また、アクションプランでも掲げた SNS での発信も行うことができた。しかし、SNS での更新頻度は低く、フォローなどを積極的に行うことができなかった。

また、発表内容は大会テーマである”笑顔で繋ぐ世界、持続可能な世界”を踏まえたものにすればよかったと感じている。だが、ミャンマーの現状をお伝えすることができ、少しでも多くの人に知ってもらえたならよかったと感じている。そして、今後もっと SNS で繋がりを多く持ち、情報を得て、それを発信していきたいと思う。募金活動も行いたい。



「全国国際教育研究大会に参加して学んだこと」

2年6組 寺井 巴菜

今回、全国国際教育研究大会に参加する事ができて良かったです。二度とない好機だったので、参加できたことが本当に嬉しいです。

まず、この大会に至るまで様々な活動をしてきました。昨年12月に日高高校で行った対日理解促進プログラムにおいてのミャンマーとのオンライン交流です。このプログラムでは2日間ミャンマーの学生と交流しますが、実際の交流する前に事前学習がたくさんありました。ミャンマー語を少し教わったり、ミャンマーの情勢を理解したりしました。

それから、その活動をもとに英語のスピーチを考え、応募しました。その英語弁論は和歌山県内と近畿内での予選が行われ、録画したスピーチ動画で審査されます。原稿を覚えなくてはならず、練習をたくさんしました。そして、近畿代表として全国国際教育研究大会愛媛大会の英語弁論大会に出場する事が決まりました。とても嬉しかったのを覚えています。英語の発音、感情、大きなジェスチャーを意識し、弁論に挑みました。台風の影響で実際に愛媛に行ってスピーチする事ができなかったのですが、練習通り全力を尽くす事ができました。そこで、英語スピーチへの考え方が大きく変わりました。ほかの出場者の方々の感情の込め方に驚き、感銘を受けました。体全体で英文に心を込め、緩急やジェスチャーは私が思っていたより大きく、声のトーンも工夫されたスピーチばかりでした。すべてのスピーチに感動し、引き込まれていくような感覚になりました。オンラインではなく、彼らのスピーチを実際に見て、聞きたかったです。本当に圧倒されました。



このように、英語弁論に出場した事よりも、高度な英語弁論を聞いた事が本当に貴重な経験になりました。研究発表や日本語弁論も聞く事ができました。なかなかこのような機会はないので、非常に嬉しく有難いです。私も彼らのようなスピーチしたいです。ここで学んだ事を意識して、これからの英語の活動、スピーチ、舞台発表などに活かしていきたいです。

台湾高雄市立高雄女子高級中学来校



12月4日(月)、台湾高雄市立高雄女子高級中学から生徒32名と引率教員2名が、修学旅行の研修地のひとつとして日高高校を訪れました。台南にあるこの女子校は、生徒数2千人を超える大規模校です。本校は国際交流委員会を中心に、来日前の10月からオンラインを利用したグループ活動に取り組んできました。8つのグループに分かれ、それぞれバディを決めて、双方の学校や高校生活の様子をネット上で共

有していました。お互いにお気に入りの音楽や文化など前もって情報交換していたので、来校当日は、遠方からの友だちに会ったように気さくに迎えられて、打ち解けた雰囲気での交流活動ができたようです。一行は放課後、クラブ活動にも参加しました。



【生徒による感想】

2年5組 赤松 采花

私は台湾国際交流を通して、理解することや伝えることの大切さを痛感しました。私はどうしても外国は遠い、日本とは違うと感じていました。しかし、オンライン交流やペアの子と話している中で、共通点を見つけられ、同じ学生だなと思うことがたくさんありました。また、私自身、人前で話すのも英語も苦手で、交流の際は拙い英語で話してしまいました。一生懸命に話しているうちにペアの子と仲良くなり、伝わったという達成感と台湾とのつながりを感じることができました。言語だけでなく、表情やジェスチャーも大切なコミュニケーションの一つであると学びました。世界を間近に感じる貴重な経験でした。

1年1組 宇和 峻輝

台湾の生徒が来校し感じたことはやはりとても親日的だということだ。事前に行われたオンライン交流では、日本のアーティストやマンガをたくさん知っており、日本語をしゃべる生徒も別の班にしていると聞いて驚いた。英語の発音がとてもよい生徒ばかりで、翻訳アプリなしでのコミュニケーションは難しいほどだった。自己紹介動画を見せ合い、趣味の話をして盛り上がる事ができた。交流当日、台湾の生徒が「青のすみか」のダンスを踊っていたのが印象に残っている。昼食を一緒に食べたときは、台湾のお菓子を沢山もらえて嬉しかった。これからも台湾の生徒と交流することがあれば今回の経験を生かし、スムーズに交流を進められたらいいなと思った。



【編集後記】

この度、4年ぶりに本校の「国際交流のあゆみ」を発行することができました。2020年1月から新型コロナウイルス世界的感染拡大の影響を受け、姉妹校相互訪問交流を始めとする対面での国際交流が、ほぼ実施不可能となってしまいました。その間、日高高校の国際交流の火を絶やさないよう、オンラインによる交流プログラムに変更するなどして対応しましたが、実のところ、もどかしさを感じることもありました。通常に国際交流ができるということが、いかに恵まれたことであったのかを痛感しました。

そして、ようやくコロナ前のような国際交流ができるようになった2023年度。本誌には、様々な交流の機会に意欲的に参加し、さらに自らの体験や感動を広めようとする生徒の皆さんの言葉が収められています。ここに紹介している以外にも、実に多くの生徒の皆さんが海外からの訪問団来校時や海外のプログラムなどに積極的に参加し、人々をつなぎ、多様な文化や価値観を学ぶ楽しさに気づいてくれました。交流場面では、温かな雰囲気の中、弾けるような笑顔があふれていました。

2010年、姉妹校になる以前のフレデリクスハウン高校(デンマーク)に初めて4名の生徒と訪れた際、国際交流担当のバドマン先生が私たち訪問団にこう言ってくれました。” You were great ambassadors. (素晴らしい大使) ” 私たちが国境を越えて人々と繋がり、絆を紡ぎ、一人一人が友好の架け橋となることは、平和な世界への小さな一歩なのだと教えてくれた瞬間でした。

国際交流は、単なる語学の習得や異文化理解というだけでなく、私たちの人生を豊かにしてくれる貴重な経験です。それらが自身の未来を拓き歩いていく皆さんに、かけがえのないものを与えてくれることを願います。

日高高校 教育開発部